

中長期目標	地域資源を活かした探究的な学びや部活動の振興をとおして、個性の伸長を図るとともに、協働する力や粘り強く物事に取り組む力を育み、価値観の多様化する時代を生き抜くことのできる、豊かな人間性を備えた人材の育成を目指します。	今年度の重点目標	「BIG」に育て！境高生 1【B】部活動による人間力の伸長（部活動を通して、協働の力、たゆまぬ努力を続けられる力など幅広い人間力を伸長します。） 2【I】生きる力（探究力）の育成（探究的活動を通して、課題発見能力や課題解決能力や表現力など深い生きる力（探究力）を育成します。） 3【G】学力の向上と進路実現（普通教科と専門教科および学校設定科目を通して、進路実現を可能にする確かな学力を育成します。） 4 学校業務改善の取組を進め、学習指導をはじめとする生徒に対する指導の充実を図る。

年 度 当 初					評 価 結 果(1月)		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 部活動による人間力の伸長	○「部活動に入ってからしっかり頑張った」と回答する生徒の割合が8割を超えること。 ○全国大会出場者が80名、入賞者が5名を超えること。 ○中国大会出場者が200名を超えること。	○全国大会出場者44名（入賞者2名）、中国大会出場者数222名（近畿大会含む）。 ○部活動加入率は80%を超え、生徒は積極的に活動に取り組んでいる。 ○学習と部活動の両立は、困難を感じるが、根気強く指導を続けていく。	○文武両道に励み、地域の誇りとなる普通科高校として存在 ○県トップレベルの実績を持つ部活動を維持育成し、学校内外に活力ある境高を発信 ○部活動を通して、協働の力、努力する力など人間力の育成	○学校として部活動を応援しているというメッセージを出し続けることが必要。日頃から生徒の活動や実績を学校全体で共有し、文武両道の学校という像を教員も生徒も自覚できるようにする。 ○境高校の魅力の一つである部活動をアピールしたり活動の幅を広げられるように各顧問が連携して部活動の活性化を図りたい。 ○部活動においても、担任、学年、分掌と協力しながら生徒指導を積極的に実施する。 ○学習と部活動の両立について、顧問から積極的に指導をする。 ○ボランティア募集情報を生徒に伝え、積極的な参加につなげる。 ○生徒向けボランティア講座を開催する。 ○ボランティア活動や地域の活動への参加が「社会認識を高める」という視点からも重要であるということを再度説明したり、実際にボランティアに参加した生徒の声を伝えていく。			
	○「ボランティア活動に主体的に取り組んだ」と回答する生徒の割合が5割を超えること。	○ボランティア参加者は延べ112名であった。（トライアスロン・保育園・高齢者施設など） また、ボランティアの経験を進学試験で生かしている生徒もいる。 ○スクールプロジェクトを通じて地域の小学生と学習やスポーツの交流を行うことができた。	○地域のボランティア活動への積極的な参加 ○部活動において地域の人材の力を借りたり、生徒が小中学生に学習やスポーツを指導したりすることで地域の信頼を獲得				
2 生きる力（探究力）の育成	○「自分や他人を大切にすることができた」と回答する生徒の割合が9割を超えること。 ○「生徒は自分や他人を大切にすることができるようになった」と回答する教員の割合が9割を超えること。 ○「探究学習等に主体的に取り組むことができた」と回答する生徒の割合が9割を超えること。	○Q Uを用いて生徒の抱える問題の早期発見に努め、学級の実態を把握し相談活動から得た生徒の情報を教職員間で共有している。また、学期1回の生徒情報交換会を行うことで組織的な対応に繋げて問題解決にあたった。 ○生徒間のトラブルについては、関係する分掌間で生徒情報を共有し、問題事案に対して組織的に対応した。 ○他者を想像し、気遣いや思いやりを持てるよう、妊婦体験、社会人講師による手話の学習、高齢者疑似体験等様々な体験の機会を設けた。 ○1年次生は、ソーシャルスキルトレーニングを人権学習に取り入れた。 ○元気に学校生活に取り組んでいる生徒が多いが、友人関係や人間関係で悩む生徒が増加している。 ○「境考学」では1年次生は、SDGsセミナーを開催し、18団体36名の方からSDGsの取り組みを学ぶことができた。2年次生は、フィールドワークを実施し、地域に出かけてイベントに参加をしたり、地域の方と一緒に活動をする機会を持つことができているグループもあった。 ○1月に例年通り、成果発表会を開催することができた。今年度は外部機関と連携し、さかいみなと未来議会、ふるさとフォーラムIN米子、鳥取県教育研究大会へ参加するなど、校外でアウトプットする機会を設けることができ、生徒にとっては貴重な経験であった。生徒の主体性や積極性を育む良い機会として継続していくことが必要である。 ○探究活動の継続や時間数の確保が難しい面があった。	○生徒一人ひとりの状況を全教職員が把握できているという生徒理解の意識の高い職場 ○人権教育全体計画に基づいた規範意識・人権意識の高揚 ○「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を養うため、境考学を充実・発展 ○境考学を進める上で、地域の方々と連携し、地域の課題を見つけ、その解決に努める	○仲間を大切にすること、学校の環境を大切にすることをクラス、学年集会、全校集会などで伝え続ける。SNSなどの利用についても、事が起こってからではなく、日常的に啓発していく。特に性に関する事案は、現代社会では許されないものであることを繰り返し伝える。 ○疑似体験は、体験して終わりになっているので、感想や意見を共有する機会を持つ。 ○生徒会執行部や部活動が中心となり、活発な挨拶ができるよう働きかける。 ○境港警察署との連携事業を継続し、特に自転車運転時の交通安全についての啓発活動を充実させる。 ○「境考学」において境港市役所をはじめとした、外部機関との連携を今後とも継続していく。 ○今年度末に向けて、探究に関する職員研修の開催を検討する。 ○今後、「境考学」を学校全体の活動としてその意義を確認し、継続的に取り組んでいく。外部機関との連携をさらに深めていくためには、時間数の確保、分掌専任教員の増員、コーディネーターの確保が必要である。 ○引き続き生徒の様子を見守り、声掛けを行っていく。 ○今後も環境委員を通じて、ゴミの分別の徹底・減量化などの活動・呼びかけを継続して行っていく。 ○スマートフォンなどの指導やクロームブックの目的外使用への指導を強化する。 ○生徒の服装、化粧などのルール違反に対し職員全員が危機感を持ち、学校として改善に向けて対応していく。生徒全員が挨拶ができるように、学校として取り組む。 ○生徒部と学年団との連携や生徒会執行部の活動を通して、服装・頭髪・スマートフォンの取り扱いなど「学校生活のきまり」を遵守させる体制を整える。			
	○「挨拶・服装等けじめのある学校生活ができた」と回答する生徒の割合が8割を超えること。 ○ゴミの分別・減量化について、平成28年度との比較で継続して減量を実現すること。	○挨拶の習慣が定着している生徒が多いが、挨拶の声が小さい生徒が増えたように感じられる。 ○服装・頭髪の規則に関しては概ね守れており、指導にも殆どの生徒が応じている。ただ、年間を通して女子生徒の短いスカート丈やネクタイ未着用が目立った。 ○SNSのトラブルは殆どなかったが、校内でのスマートフォン使用違反が86件あり、昨年度より32件増えた。	○挨拶の励行、服装・清掃指導等の徹底 ○生徒が主体となって取り組む学校環境の整備				
3 学力の向上と進路実現	○「進路目標を定め、その実現に向けて家庭学習を進めた」と回答する生徒の割合が8割を超えること。 ○国公立大学現役進学者数が30名を超えること。	○担任の個人面談や学期ごとの保護者懇談会等を通じて、また進路部との連携を通じて、生徒自身や保護者に進路意識を持ってもらうよう働きかけた。また、学年集会においては、現状に満足するのではなく、少しでも上の目標を持って努力するよう働きかけたが、まだまだ授業や学習への意欲・意識は高くない。 ○放課後に自主的に居残り勉強をする生徒や、みなとテラスを利用する生徒が増加した。 ○特進クラスの生徒は、忍耐強く学習に取り組んでいる。 ○目標が明確な生徒や学習の習慣がある生徒は、我慢強く勉強することができている。 ○2年次の「境考学」を契機に、主体的な活動を3年次に行い、進路実現に繋がった生徒もいた。 ○「話してみよう韓国語」において全国大会への出場をはたした。	○生徒が3年間をとおして進路目標を持ち、その実現に向けて努力する姿の確立 ○キャリア教育全体計画に基づいた明確な進路目標の設定	○考查前に自習室を確保し、勉強する場を提供する。 ○特進クラスの3年間の指導をどのように行うのかの検討が必要。特色入試の学力で入学した生徒を、放課後講習や長期休業中の講習などを通してきちんと指導することで合格率が向上する。 ○ICTについて、学校としてどのように利用し、どのように規制していくのか、明確にする。 ○進路意識について、こまめに担任・教科担任・部活動顧問などで面談等を重ねて意識付けを行ったり、学年集会等でも意識付けを行う。また、学校推薦型選抜や総合型選抜に特化した講座、プレゼンテーション講座の開設など生徒のニーズにあった取組も必要と感じる。 ○授業を中心とした学習指導を継続していく。家庭学習の定着や自学の習慣を身に付けさせ、成績上位者には応用力をつけさせる。 ○スピーチコンテストや国際交流について、従来通り声かけを続けるとともに、英検などの英語外部試験についても、積極的に受検するように声かけをする。 ○スタディサブリを利用した学び直しも含めて家庭学習に取り組む機運を高める。			
	○「授業の内容に興味がわき、理解が深まった」と回答する生徒の割合が8割を超えること。 ○タブレット端末等のICTを活用した生徒主体の授業を8割以上の教員が実践すること。	○基礎学力が不足している生徒が目立つ。落ち着いた授業に取り組む雰囲気確立することと、家庭学習の定着が必要である。 ○教科書付属の動画、スタディサブリ等を用いて、生徒個々の活動ができ、理解を深めることができた。 ○冬休みの課題をクロームブックを使い提出させた。予想以上に使いこなせる生徒もあったが、授業での利用は限定的であった。 ○多数の端末でのインターネット利用が不可能な現状では学校全体でタブレット端末を常用した授業を行うのは難しい。	○1人1台端末を用いた授業研究会並びに授業参観週間での各教科代表による公開授業の定着				
4 学校業務改善の取組	○行事や委員会等を抜本的に見直す。 ○長時間勤務者の解消	○担任と副担任を中心に連携したクラス経営ができている。学年全体で円滑な協力関係ができている。 ○欠席連絡にGoogleformsを取り入れ、保護者の負担、電話対応の負担は軽減した。学事への欠席登録方法については今後改善の余地がある。 ○採点に百問繚乱を取り入れる教科が増加し、週明けテストにも活用している。一方で導入時に比べ起動や動作に時間がかかることが増えているので、早急に対処する必要がある。 ○学事システムの活用で業務軽減にはなっているが、日々入力の登録においてミスが起きやすい。 ○推薦・総合型選抜対策の個別指導が、2学期の教員の負担を増やしている。	○時間外業務の上限が、月45時間、年360時間を超えないよう遵守 ○休養日、活動時間を設定した活動方針の全部活動への徹底	○今後も学年団で連携を密にしていく。 ○まずは現在の職員の体制でどこまで対応可能か整理が必要。 ○現在の本校の方針や問題を整理し、教育委員会にも協力してもらい人員配置（増員）を含めて協議する。 ○特進クラスの意義の観点から長期休業中に講習を入れることができる日程を考え、特進クラスの生徒の学力向上と意識向上を図りたい。 ○週明けテストは労力に見合った成果が出ていないように感じる。例えばクロームブックを使った小テストなど新たな取組が必要。 ○Googleformsや百問繚乱について利用者は増加傾向にある。職員全員が活用できるように使用をさらに促進していきたい。 ○業務の割り振りや分担を工夫する。 ○学事システムについて、まだ改善の余地があるので検討したい。			